

Merhaba! トルコ

イスタンブール日本人学校

本間 和寛

令和3年3月

なかのくちにししょうがっこう
中之口西小学校のみなさん、Merhaba! (メルハバ トルコ語で「こんにちは」) トルコのイスタン
ブル日本人学校で働いている本間和寛です。今年度ももうすぐ終わりです。進級、進学に向けて学
習のまとめをしていきましょう。

さて、今回は日本人学校の元スタッフの結婚式に招待されたので、トルコの結婚式をご紹介します。
トルコの中でも地域によって差があるようですが、今回はトラブゾンという地域の結婚式です。少し
でも(おもしろい!)とか(見てみたい!)と思ってくれたらうれしいです!

新郎新婦

まず今回の主役、新郎新婦のお二人です。新婦
のアイシェさん(トルコでアイシェという名前の
女性が本当に多いです。学校の現地スタッフだけで
3人います…)は結婚されるまで、スクールバスの
添乗員をして、そして校舎のお掃除をして働いて
くださっていました。編み物とお料理がとっても
上手だそうです。ご主人は現在フランスでお仕事を
しているそうで、結婚後はパリで生活するそうで
す。お似合いなお二人ですね。右の写真のイスラム
教仕様の髪の毛と肌の露出を抑えた純白のウエ
ディングドレスがとっても似合っていて美しかったです。



クナ・ゲジェシイ

トルコの結婚式では、「Kına

Gecesi (クナ・ゲジェシイ)」と

いう結婚前夜パーティーが行われます。「ヘナの夜」という意味です。結婚前夜に女性だけで行われます。花嫁になる娘の手に魔除けの効果があるとされる「ヘナ」を施し、花嫁の結婚生活の幸せを祈る、トルコの伝統儀式です。「ヘナ」とは、植物の葉を乾燥させた染料で、肌に長時間のせて置くと色がしみ込んで、1週間~1か月ほど残ります。「クナ・ゲジェシイ」では、花嫁の友人たちが花嫁を囲んで、悲しい歌を歌ったり、手紙を読んだりして、なんとか花嫁を泣かせようとします。これは「クナ・ゲジェシイ」の晩に涙を流せば、結婚後に悲しい思いをせずに済むと言われているからです。無事？に花嫁が涙を流したら、その手の平にヘナを施す段階に移ります。しかし、花嫁はすぐに手を開きません。花婿の母親が、花嫁の納得する金(または贈り物)を提示して初めて、花嫁は手を開き「ヘナ」が乗せられます。

もちろん現在では贈り物が気に入らないからと言って結婚が破談になることはありませんが、習慣としてポーズだけ受け継がれています。「ヘナ」の儀式が終わると、花嫁もヴェールを外し、会場の雰囲気は一転、ノリノリな音楽をかけて歌ったり踊ったり



私は参加できないので、特別に娘を参加させていただきました。

花嫁は bindalli (ピンダッル) と呼ばれる民族衣装を着て、赤いヴェールを被ります。「ヘナ」を施した右手は、特性の手袋をして色を着させます。



と、全員で楽しい時間を夜中遅くまで過ごします。新婦の友人などは新婦の家に泊まり込み、家族との別れや新生活に不安を募らせている花嫁を、みんなで楽しく送り出してあげる女子会という感じです。

このような伝統も時代とともに変化しています。新郎側と新婦側が全員集って男女一緒に「クナ・ゲジェシイ」を行ったり、結婚前夜ではなく何日も前に行ったり、洋装のドレスを着る人もいます。左の写真のようにアイシェさんも着ていました。近年は楽しいイベントとして逆に見直されていて、いかにオシャレなパーティにするかがブームなようです。可愛いグッズもどんどん作られています。



結婚式は新婦の出身地トラブゾンで行われたため、「クナ・ゲジェシイ」ではトラブゾンの民族衣装で踊る女性たちもいました。「Peştemal (パシュテマル)」という白と赤の太いストライプの腰布が特徴的です。これは、険しい山岳地帯のトラブゾンで生活する女性たちの腰を守る役割があったそうです。

結婚式当日



トルコ語で「私たちが結婚します！」
と書いてあります。

約束の時間に新婦宅に到着すると、もうお祭り騒ぎが始まっていました。太鼓とラッパの音楽で人々が輪になって踊りまくっています。新郎新婦が家から出てくるとさらに盛り上がり踊り続けます。ひとしきり踊ったら、右の写真のド派手な車で結婚式会場に向かいます。友人知人たちも自分たちの車を飾り付け、大音量で音楽やクラクションを鳴らしながら走ります。通り過ぎる車や人々もクラクションや拍手で祝福してくれます。この時点で度肝を抜かれてしまいました。



トルコで参席したウェディングは、日本のものと大違いでした。まず飲酒なし、次に食事なし（ちょっとしたお菓子とジュースのみ、これは地域によって違います。）、スピーチ一切なし、そしてみんな踊りまくります。最初はゆったりとした曲で新郎新婦のダンスを披露します。そして徐々にカップルや夫婦が参加し、エレガントなダンスタイムが続くと思われた矢先、突如軽快な音楽が生演奏でながれます。楽器は伝統楽器「ケメンチャ」です。さっきまで見ていただけのお年寄りや子どもたちがぞろぞろと中央に出てきて踊りだします。男女とも指パッチンをしつつ胸を張って前後にステップを踏みます。これはトラブゾン特有の踊りらしいです。そして黒海地方独特のホロンが登場します。ホロンとはトルコのフォークダンスで、みんなで手をつないで輪になって踊ります。おじいちゃんも、おばあちゃんも、子どもも、ハイヒールを履いた若い女子も、100人近くが全員仲良く手をつないで軽快にステップを踏んでいきます。新婦もドレスの裾を片手で持ち上げながら踊る、踊る。



1 曲 終わると (ふー、やれやれ) という感じで戻り、また 曲 が始まるとそろそろと踊り出します。私も途中から踊りに参加しましたが、2、3 曲 終わった時には汗だくです。トラブゾンの人たちは踊り好きと言われるだけあって、ここまで踊る結婚式はトルコでもなかなか無いそうです。



ダンスがメインの結婚式ですが、イベントがいくつかあります。そのうちの1つが新婦にお祝いを渡すものです。トルコには日本のようなご祝儀はなく、新婦に金のネックレスやブレスレットを送ります。これは、現金と違って金には普遍的な価値があるからだと考えられているからです。現在は現金を渡す場合も増えているようです。送られた貴金属は、その場で新婦に付けられます。

もう一つが、ケーキカットです。切り分けられたウエディングケーキは参加者にふるまわれます。今回は右のようなアイスケーキでした。



驚きばかりの結婚式でしたが、新郎新婦お2人や周囲の人々を見ていると、どこの国でも幸せを願う気持ちは変わらないということを感じます。今年度の「メルハバ!トルコ」は今号で終わりとなります。1年間ありがとうございました。またトルコの情報をお送りできればと思います。それではみなさん、その時まで「iyi gunler! (イイグンレル トルコ語でごきげんよう)」



美人な新婦さんの横でドッキドキ!